

2017 名古屋市長選を振り返る



注目していた名古屋市長選が終わった。現職の河村たかし候補が再選された。書きたいことは多いが、とりあえず心に残ったことを記しておきたい。

4月15日（土）午後、栄オアシス広場で岩城正光さんの「街頭演説会」があった。雨が降りしきる中、多くの人が傘を差して詰めかけた。傘も差さずに、応援メッセージを聞く岩城さんの姿が印象的であった。そこで配布された、新しい名古屋を共に創る会届出ビラ第1号に書かれた「拝啓 名古屋市長様」を俳優の天野鎮雄さんが読みあげた。

拝啓 名古屋市長様

8年間ご苦労様でした。名古屋市の歴史上、あなたほど話題を提供した市長はいませんでした。「庶民革命」の掛け声も、ユニークな名古屋弁とともに一世を風靡しましたね。たしかに、自分の給料を三分の一に減らすような市長は、あなたしかいないでしょう。その迫力のおかげで、議会改革も大いに進んだ功績は認めましょう。しかし、もう充分です。貴男の役割はもう終わりました。

名古屋市民の生活の中にも格差が広がり、社会保障の拡充や再分配機能が求められているときに、5%の定率減税はお金持ちほど恩恵が大きい逆効果でしかありませんでした。その貴重な120億円の財源があれば、子どもたちやお年寄りのために、また生活苦にあえぐ人々のために、どれだけの施策ができたことでしょうか。なのにあなたの関心は、こうした市民の生活や行政の現場で起きている問題より、SLを走らせることや、木造の天守閣ばかりに向いていたように見えます。

あなたの「南京虐殺はなかった」発言などで、中国をはじめアジア諸国との友好交流も停滞し、独善的で思いつきの市政運営のせいで、愛知県や国との連携もちぐはぐだらけではないですか。製造業の力や地の利に恵まれた名古屋なのに、これからの名古屋の舵取りが心配でなりません。あなた流の「どえりゃーおもしれえ名古屋」より、今こそ、地に足の着いた「幸せナンバーワン名古屋」を目指してほしいです。

お疲れ様でした。

ナゴヤを愛する市民より

何人かの応援メッセージのなかでも、心に響いたのが林京香さんお母さんの訴えだった。最後のほうで、時間も1分半と短かったが、岩城さんの人柄と意思を語った。こんなに多くの人前で話すのは初めて。京香さんも緊張しながら、お母さんのスピーチをじっと聴いていた。

スピーチが終わると、岩城さんが壇上から京香さんのもとに駆け降りました。すぐ近くから



二人をカメラに収めることができた。我ながら「ナイスショット」。明日も書くつもりだ。

(2017年4月25日)